

シンポジウム SY3-3 診療報酬改定をめぐって

大江与喜子

樹徳会 上ヶ原病院

【はじめに】

学会諸氏のご努力による2018年の診療報酬改定から6年を経過した。ある程度治療効果に匹敵する診療報酬を得られるようになり病院内でも一定の地位を獲得するようになった。それに伴い、HBO設備を有する施設も徐々に増えつつあり本学会にも盛り上がりを感じさせる。

【保険適応の歴史】

高気圧酸素療法は古くから医療現場で行われており、学会も59回をむかえている。しかし保険適応になっていたとは言え、時間、人力、と代替療法のない疾患での有効性などを考えると極めて不十分なものであった。疾患に関わらず一律1日あたり500点であったが、保険適応において公式な治療法として認められたのである。当時から適応疾患に関しては学会、論文でガイドラインが作られ、多くの患者さんがその恩恵を受けてきた。そのため、先人たちは治療費、適応基準などの海外比較を検討され¹⁾、診療報酬の改定に尽力されてきたのである。その間20年前にはHBO以外に治療法がなかったような疾患も血栓融解やカテーテル治療などの本質的な治療が行われるようになり、脳梗塞、冠動脈疾患などでは行われることが少なくなっている。

一方、損傷した組織に高濃度酸素を供給する方法としてはHBOは効率的かつ安全な方法である。

非救急的疾患、特に放射線障害による骨髄炎や出血性膀胱炎など、難治性の潰瘍、脊髄神経疾患などは、従来の治療法を駆使されるもののなかなか治癒に至らず、高気圧酸素治療との併用により、損傷した組織への高濃度酸素投与があってはじめて治癒に向かう。

2010年の診療報酬で高気圧酸素治療は救急的なものに5,000点(1種装置)6,000点(2種装置)を獲得した、しかし非救急的なものは200点と減少であった。適応疾患もある程度整理されたが、疾患ごとの細かい条件は少なく、回数制限もなかった。この段階では非救急疾患においては積極的に行う施設の増加は認められなかった。

その後、2018年の診療報酬改定でこの年の改定率は医科+0.55%その中で高気圧酸素治療が特に非急性期疾患でも3,000点が認められるようになった。

1回5,000点の救急疾患は発症からの日数制限があり早期介入の必要性が反映されている。一方、放射線障害、難治性潰瘍、骨髄炎、脊髄神経疾患など1回3,000点の疾患は多岐にわたり需要も多い。1症例に対する一連のHBO施行

回数に制限があるが、上限の30回以上必要な症例も多く、治療が中途半端で終了せざるを得ない場合もある。しかし、保険点数の常ながら、一回の点数が上がれば、回数制限が設けられることとなり、疾患によっては、真に医学的有効性を反映しているとも言い難い現状である。

【提言】

エビデンスの蓄積により、費用対効果をしっかりと検討した上での症例による回数制限の緩和。

専門医、専門技師等の配置による施設基準による加算など、今後も中医協にたいして働きかけていくことは重要である。

参考文献

- 1) 合志清隆 他 高気圧酸素治療の適応基準と治療費の国際比較 日本高気圧・潜水医学会雑誌 Vol. 44(4), Dec. 2004 205-213

表1. 平成30年度診療報酬改定の保険点数

J027 高気圧酸素治療 (1日につき)

1 減圧症又は空気塞栓に対するもの	5,000点
2 その他のもの	3,000点

注

注1については、高気圧酸素治療の実施時間が5時間を超えた場合には、30分又はその端数を増すことに、長時間加算として、500点を所定点数に加算する。ただし、3,000点を限度として加算する。

表2. 救急疾患

(1) 「1」は減圧症又は空気塞栓に対して、発症後1か月以内に行う場合に、一連につき7回を限度として算定する。
(2) 「2」は次の疾患に対して行う場合に、一連につき10回を限度として算定する。
ア 急性一酸化炭素中毒その他のガス中毒(閉鎖型を含む。)
イ 重症軟部組織感染症(ガス壊疽、壊死性筋膜炎)又は頭蓋内膿瘍
ウ 急性末梢血管障害
(イ) 重症の熱傷又は凍傷
(ロ) 広汎挫傷又は中等度以上の血管断裂を伴う末梢血管障害
(ハ) コンパートメント症候群又は圧挫症候群
エ 脳梗塞
オ 重症頭部外傷若しくは開頭術後の意識障害又は脳浮腫
カ 重症の低酸素血症
キ 腸閉塞

表3. 非救急疾患

(3) 「2」は次の疾患に対して行う場合に、一連につき30回を限度として算定する。
ア 網膜動脈閉塞症
イ 突発性難聴
ウ 放射線又は抗癌剤治療と併用される悪性腫瘍
エ 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害
オ 皮膚移植
カ 脊髄神経疾患
キ 骨髄炎又は放射線障害
(4) スモンの患者に対して行う場合は、「2」により算定する。
(5) 2絶対気圧以上の治療圧力が1時間に満たないものについては、1日につき「J024」酸素吸入により算定する。
(6) 高気圧酸素治療を行うに当たっては、関係学会より留意事項が示されているので、これらの事項を十分参考とすべきものである。